

日本学術会議主催 公開シンポジウム

地質地盤情報の共有化を目指して

—安全安心で豊かな社会の構築に向けて—

日時:平成29年4月27日(木)13:30~17:40

会場:日本学術会議講堂

主催:日本学術会議土木工学・建築学委員会 インフラ健全化システム分科会

後援:国土交通省、経済産業省、土木学会、日本建築学会、地盤工学会、日本不動産学会、
日本地質学会、全国地質調査業協会連合会

参加費:無料 定員:300名

開催趣旨

わが国の国土の地質地盤は、諸外国と比べて極めて複雑で、変化に富んでいる。したがって、社会インフラ建設において利用される地質地盤情報は、国民にとって必要不可欠な情報であり、国民の共有財産でもある。しかしながら、現状では社会インフラを造る、あるいは設計するための地質地盤情報が情報インフラとして必ずしも整備されておらず、地質地盤情報の記録・公開・共有化が強く望まれている。

このような現状に鑑み、本シンポジウムでは、安全安心で豊かな社会の構築に向けて国土の基本情報としての地質地盤情報のあるべき姿と地下空間の利活用における安全性の向上について総合的な討論を行う。

プログラム

司会: 桑野 玲子 (日本学術会議連携会員、
東京大学生産技術研究所教授)

13:30-13:35

開会挨拶: 依田 照彦 (日本学術会議連携会員、
インフラ健全化システム分科会委員長)

13:35-14:35

基調講演: 地質地盤情報の共有化について
栗本 史雄 (日本学術会議特任連携会員、
産業技術総合研究所名誉リサーチャー、
地質地盤情報の活用と法整備を考える会代表)

14:35-15:35

基調講演: 地下利用に関する国の審議状況 (進行形)について
大西 有三 (関西大学環境都市工学部客員教授、
京都大学名誉教授)

15:35-15:45 休憩

15:45-17:35 パネルディスカッション:

モデレーター: 嘉門 雅史 (日本学術会議連携会員、
京都大学名誉教授)

パネリスト:

飯尾 潤 (政策研究大学院大学教授)
宇賀 克也 (東京大学法学政治学研究科教授)
北田 奈緒子 (一般財団法人地域地盤環境研究所
研究開発部門長)
小林 潔司 (日本学術会議連携会員、
京都大学大学院工学研究科教授)

17:35-17:40

閉会挨拶: 家田 仁 (日本学術会議連携会員、
政策研究大学院大学教授)



シンポジウム会場
日本学術会議講堂
東京メトロ千代田線「乃木坂」駅5出口すぐ
東京都港区六本木 7-22-34